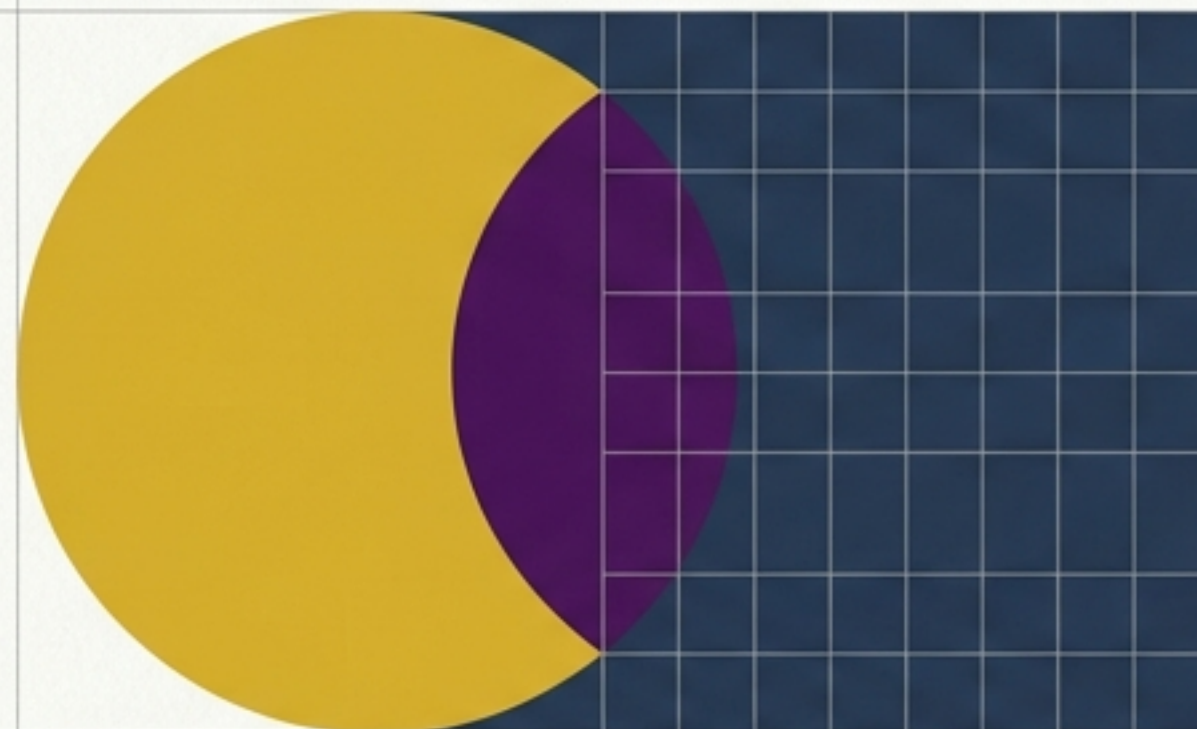
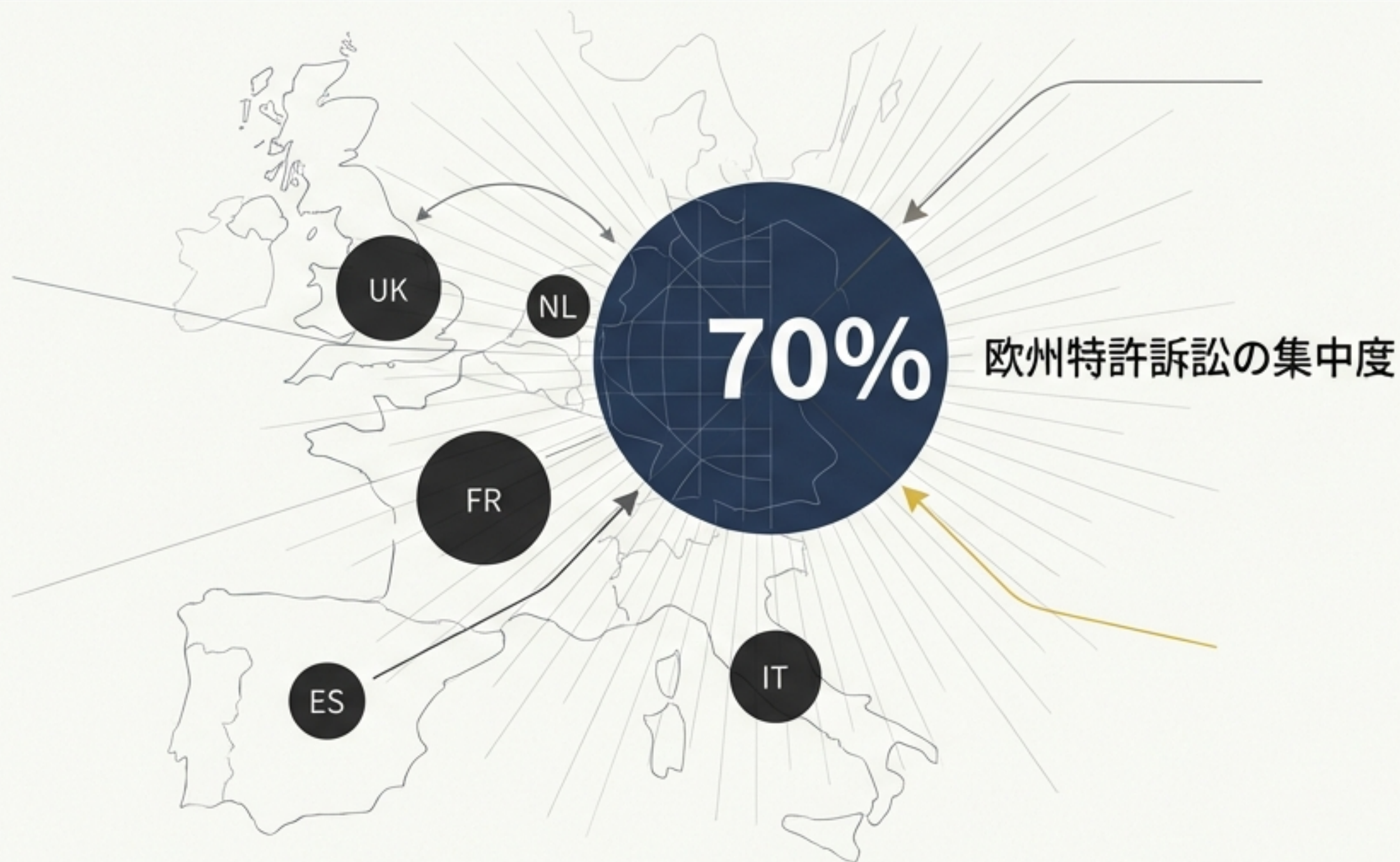




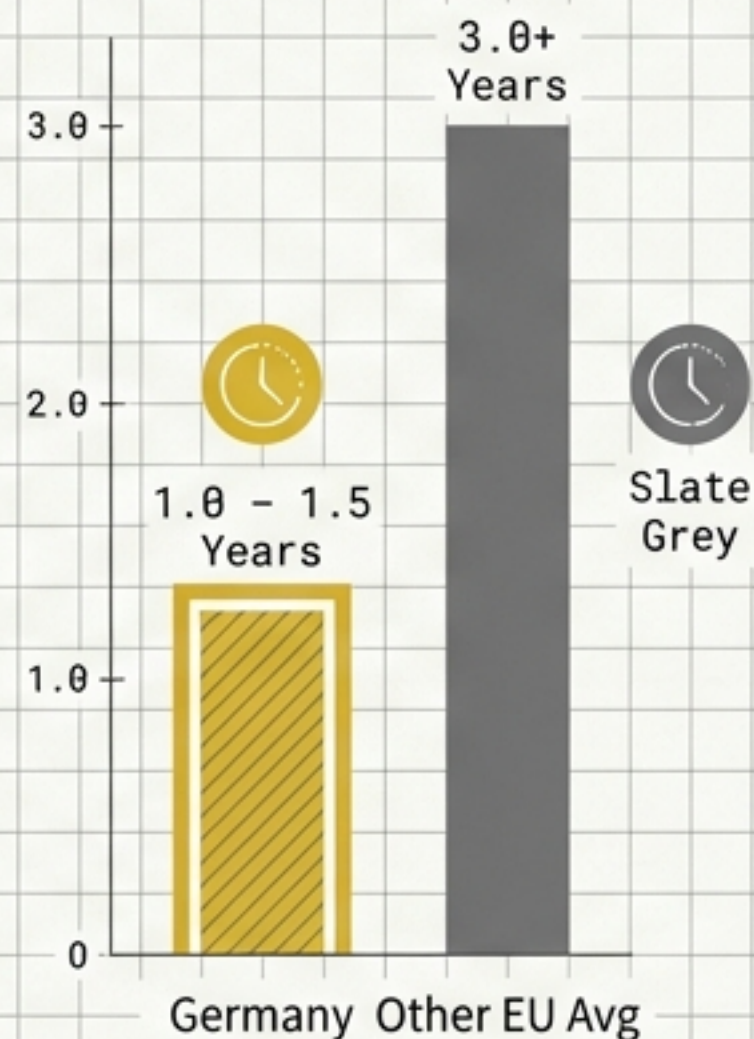
日本企業のための欧州・ドイツ特許戦略： 制度比較と実装ガイド

欧州統一特許裁判所（UPC）発効・2022年独法改正対応版

ドイツは欧州特許戦略の「重力中心」である



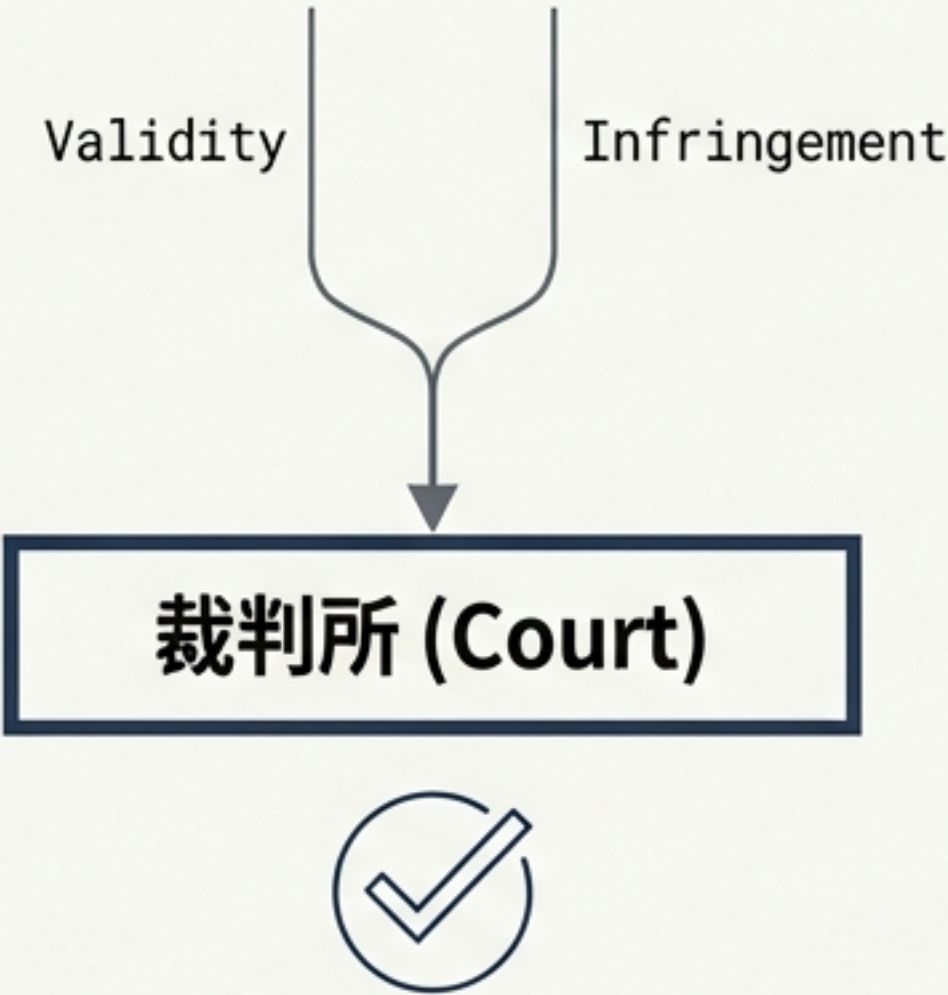
Time to First Verdict
(initial ruling time)



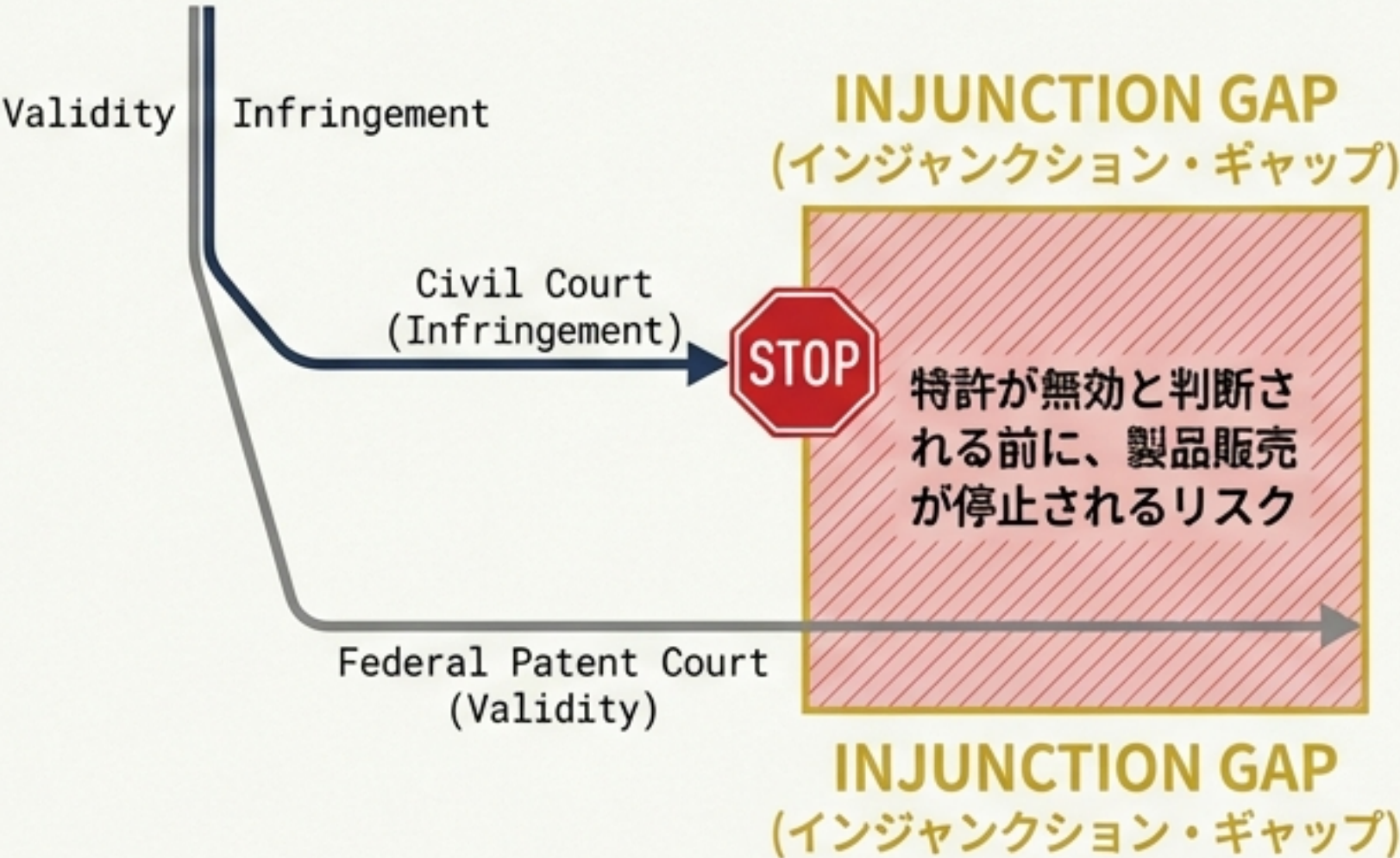
欧州へのゲートウェイ：ドイツのIP支配力は、欧州全域の市場支配に直結する。2023年6月のUPC発効以降、ドイツの伝統的訴訟ルートとUPCルートの『二重構造』を制することが不可欠となった。

「二訴訟制度」が招く差止リスクの構造的ギャップ

JAPAN: Double Track (ダブルトラック)

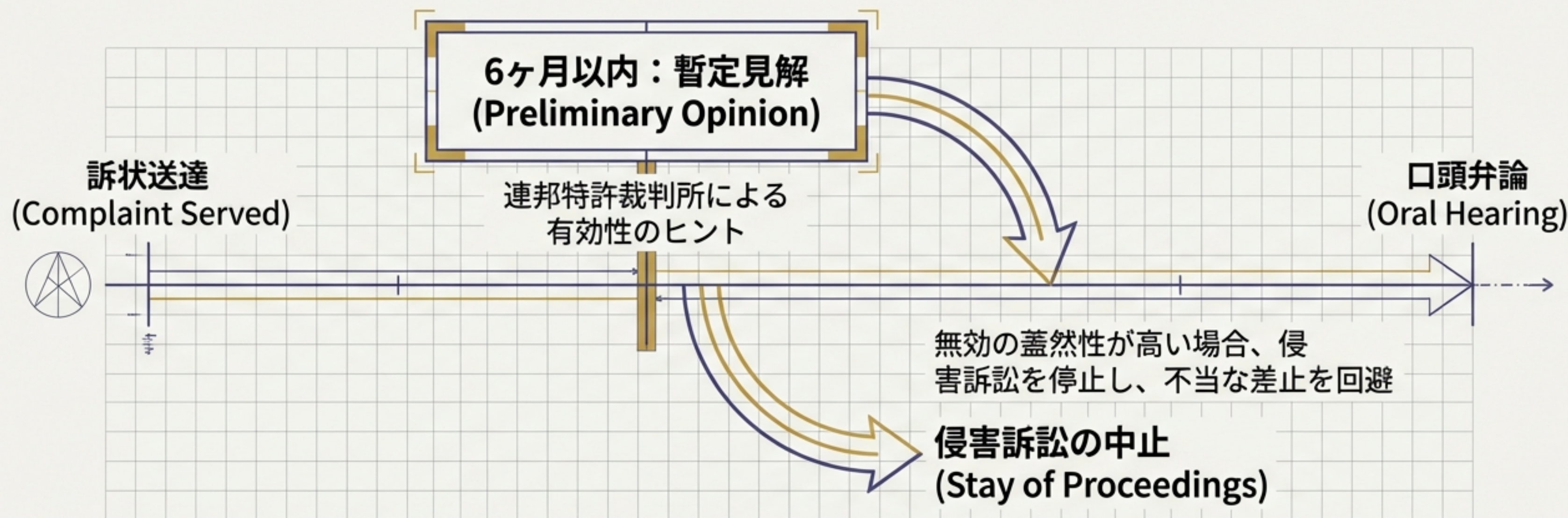


GERMANY: Bifurcation (分離原則)



侵害裁判所が無効論も判断可能
(キルビー判決以降)

2022年改正による「インジャンクション・ギャップ」の緩和



改正のポイント：予見可能性の向上。「不意打ち」的な差止リスクは低減したが、依然として日本よりは高リスクである。



出願ルートを選択：コスト、品質、スピードのトレードオフ

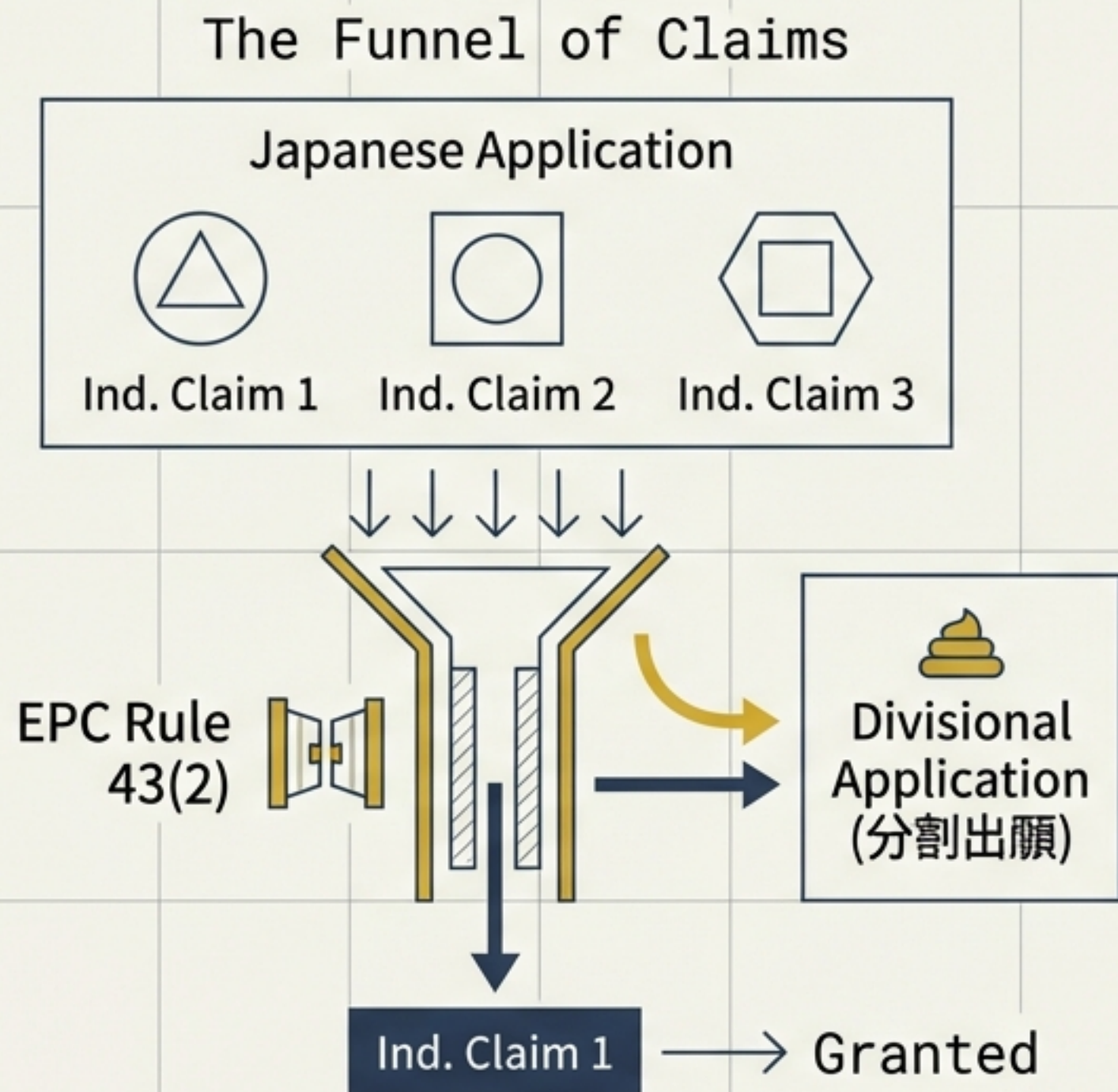
		Noto Sans JP Bold EPC Direct	Noto Sans JP Bold German Direct
	Noto Serif JP Regular Coverage	International Indigo 28+ Countries (Wide)	Noto Serif JP Regular Germany Only
	Noto Serif JP Regular Official Fees	International Indigo High (€4000+)	Roboto Mono Medium Very Low (€40)
	Noto Serif JP Regular Translation Cost (Trap)	Roboto Mono Medium Low (Claims only)	Roboto Mono Medium High (Full text 500k-1M JPY)
	Noto Serif JP Regular Examination Speed	Roboto Mono Medium Standard	Roboto Mono Medium Slow (5-6 Years)



Noto Serif JP Regular

結論：翻訳コストを含めた総コストでは、複数国展開においてEPCルートが有利になるケースが多い。

欧州特有の「形式的落とし穴」：EPC規則43(2)



原則：1カテゴリーにつき1独立クレームのみ



リスク：違反するとRule 62a通知により、選択外の発明が切り捨てられる。



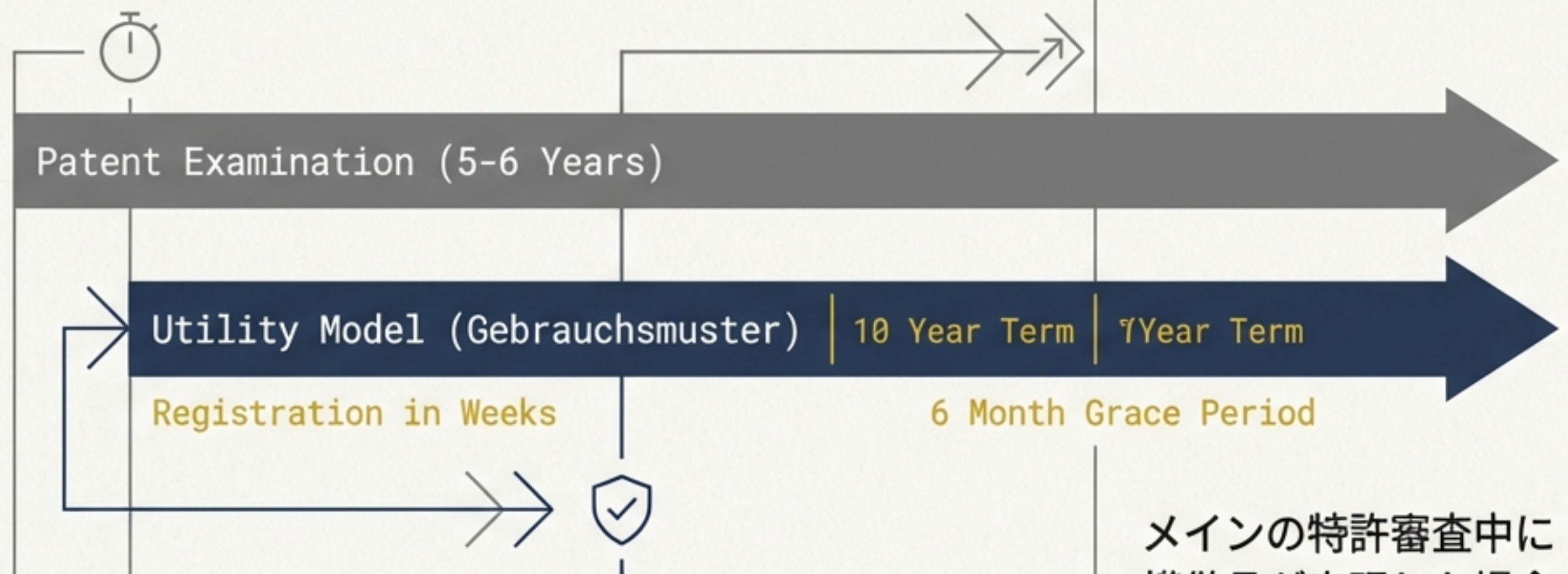
対策：出願時の厳格な絞り込み、または分割出願による救済。

結論：EPC規則43(2)は形式的だが致命的な障壁。早期の戦略的選択が必須。



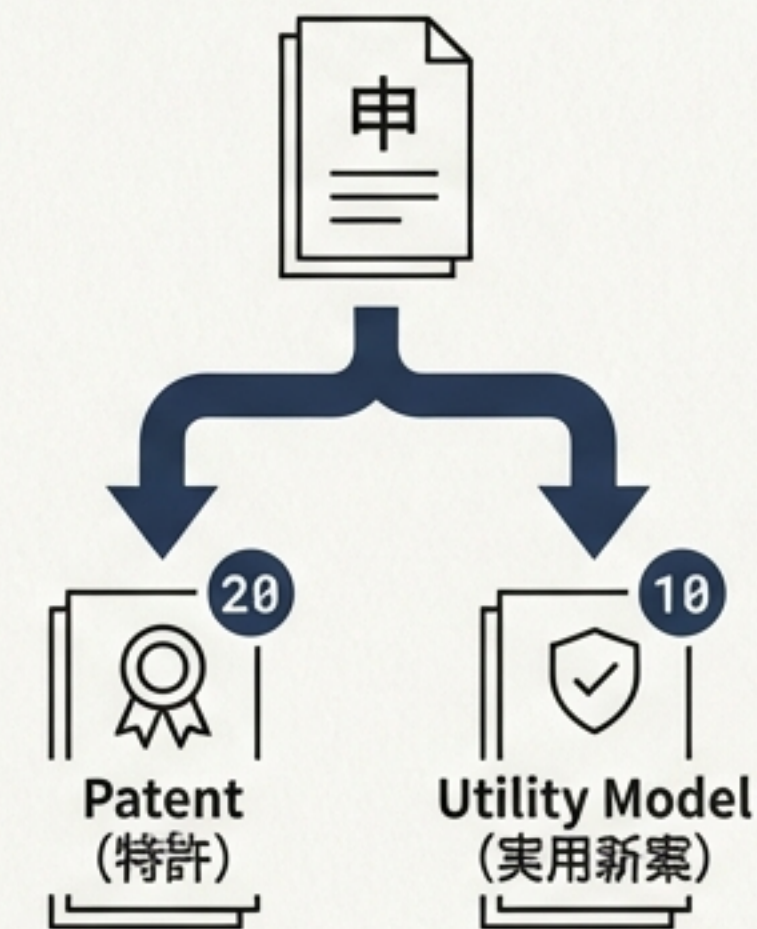
ドイツ実用新案：「影の武器」としての活用法

Shadow Timeline



メインの特許審査中に模倣品が出現した場合、即座に実用新案を行使して差止を行う。

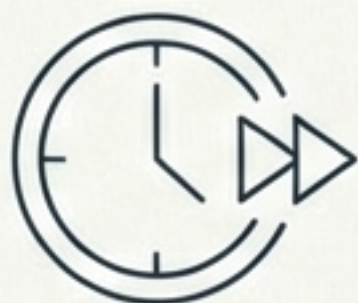
Branching Off



Double Protection Allowed
(日本と異なり併存可能)



審査遅延（平均5-6年）への対抗策



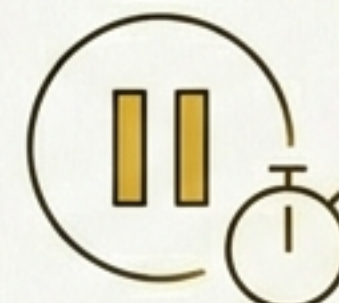
Early Processing Vorzeitige Bearbeitung

PCT移行時に申請。期間満了を待たずに審査開始。



PACE Program EPO Acceleration

欧州特許庁での審査を加速させる標準的手段。



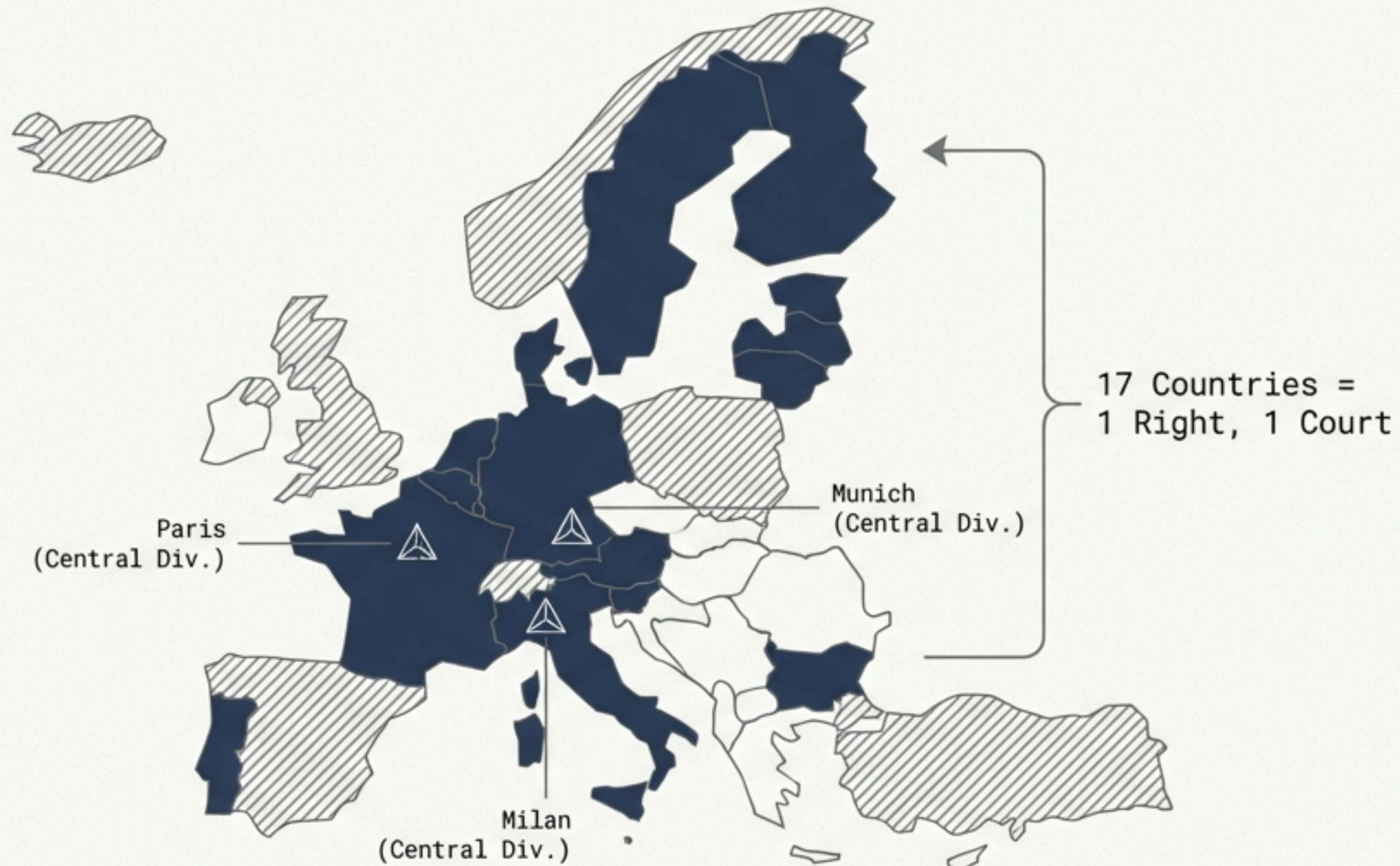
Strategic Delay 審査請求の延期

逆に7年間審査を待つことで、競合製品を見極めてから権利化する戦略も有効。

Control of Speed（スピードのコントロール）



2023年のゲームチェンジャー：単一効特許 (UP) と統一特許裁判所 (UPC)



 単一の更新手数料
(Single Renewal Fee)

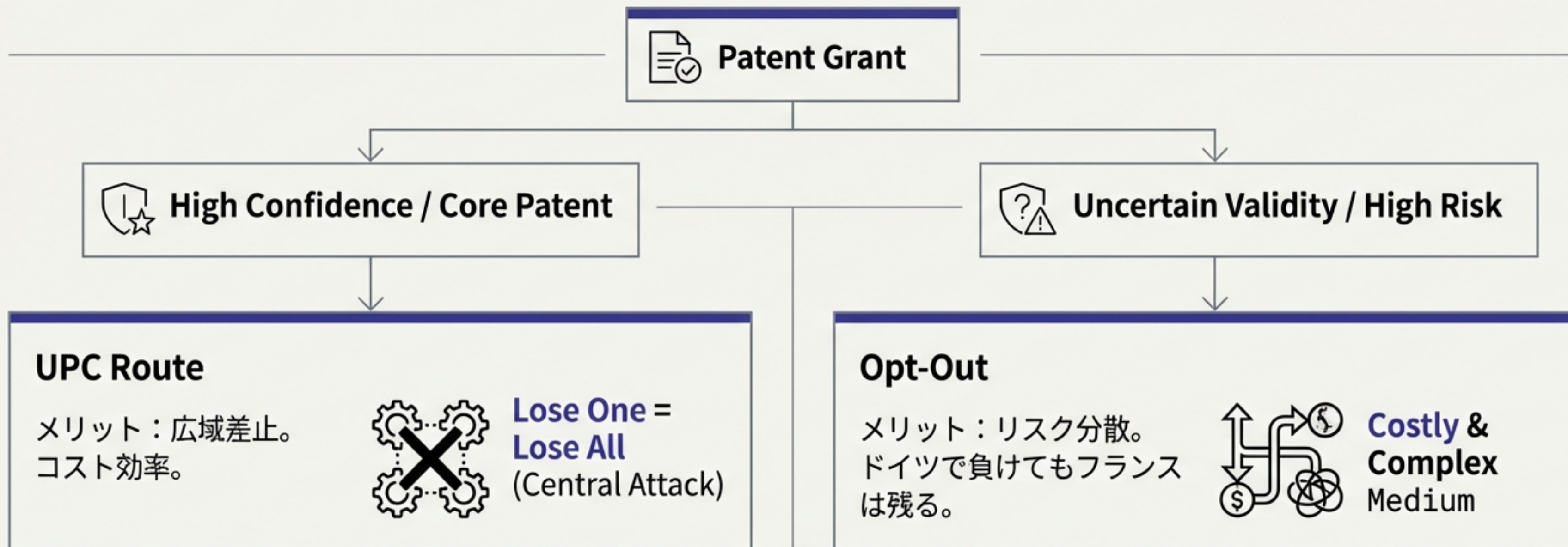
 単一の検証
(One Validation)

 広域執行
(Pan-European
Enforcement)

従来のバラバラな国別訴訟を、ミュンヘン・パリ等での一括解決に統合。

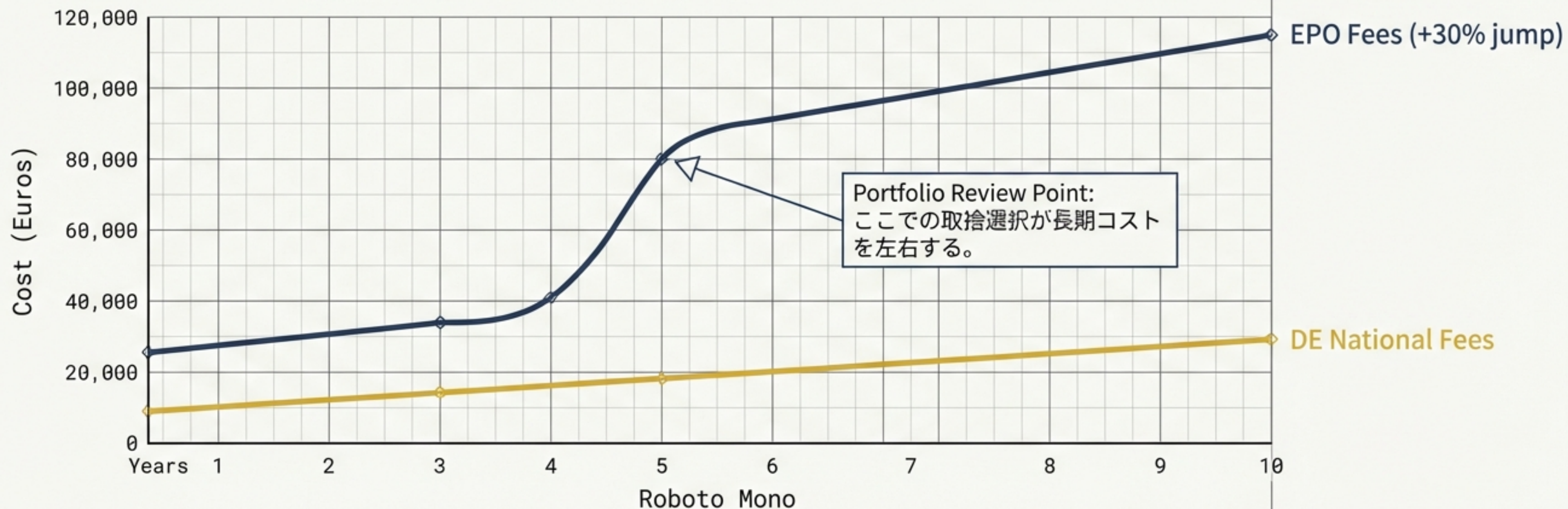


セントラルアタック・リスクとオプトアウト戦略



重要アップデート (Nov 2024): 国内訴訟が一度開始されると、オプトアウトの撤回は不可能になる。サンライズ期間中の判断が極めて重要。

維持年金コストの最適化戦略



戦略：

全指定国での漫然とした維持を避け、DE/FR/UK等の主要市場に絞り込む。

訴訟前の防御：先制措置のチェックリスト



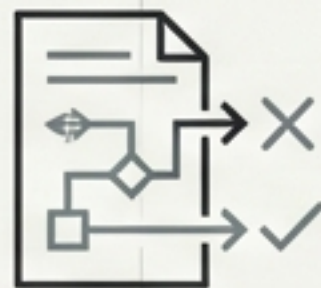
**Protective Letters
(Schutzschrift)**

仮処分を阻止するために裁判所に事前供託する防御書面。



**EPO Opposition
(異議申立)**

特許付与後9ヶ月以内の「ゴールデンタイム」。低コストで競合特許を無効化。



**Non-Infringement
Arguments**

ドイツの迅速な裁判に備え、製品発売前には非侵害論理を完成させておく。

企業タイプ別推奨戦略モデル



Large Enterprise

**EPC Direct +
UPC Hybrid**

Focus:

- Rule 43(2) compliance.
- Use Divisional Applications freely. Selective Opt-out.

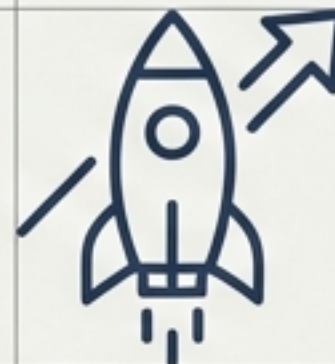


SME (Germany Focused)

**German Direct +
Utility Model**

Focus:

- Manage translation costs.
- Use **Utility Models** as backup.
- Avoid complex UPC risks.



Start-up

PCT → Delay

Focus:

- Buy time (30 months).
- Decide route only when market is proven.

実装ロードマップ：アクションプラン



Short Term
(Filing)

- クレーム構造の見直し (Rule 43(2))
- 重要製品に対する保護書面 (Protective Letters) の提出



Medium Term
(Prosecution)

- 競合他社のEPO特許監視 (異議申立用)
- 既存ポートフォリオのオプトアウト判断



Long Term
(Litigation)

- デュアル・ディフェンス体制の構築 (侵害担当 + 無効担当)
- 年金コストに基づく権利放棄 (Year 5)

ハイブリッド・マインドセットの確立



日本の「**R&D精度**」×ドイツの「**法的堅牢性**」

直近の課題：UPCオプトアウト状況の再評価を直ちに実行せよ
(Immediate Task: Re-evaluate your current European portfolio for
UPC Opt-out status before the transition period ends.)